

“水素エネルギー”の研究會が始まる

第一回「千葉県の特色を生かした水素の利活用に関する研究会」が8月24日ホテルプラザ菜の花で開催されました。岡崎東工大特命教授をはじめ諸事業所の関係者9名で4回ほど審議される予定です。

国が平成26年「水素・燃料電池戦略ロードマップ」を策定したことに対応して、千葉県の水素の製造・貯蔵・輸送・利用について今後の方向性を検討していくものです。県（事務局）からは千葉県の状況として、①燃料電池自動車「MIRAI」を8/26に1台納入すること②水素ステーションは2か所③石油コンビナートでの水素の製造が多いこと④スマートシティ（柏の葉・浦安・佐倉ゆーかりが丘）も各地で始まっていると報告。

岡崎教授からは、「水素導入の意義」として地球環境問題への寄与、「水素のエネルギー媒体としての優位性」として種々のエネルギー源から造ることができる二次エネルギーとしての水素の優位性が語られました。そして千葉県の臨海工業地帯、未利用再生エネルギーの活用のポテンシャルから今後のグローバルな長期的展開が期待されました。

東京ガスさんからはエネファームの熱と電気との利用効率は95%とその拡大の必要性が語られました。国のロードマップの中でもエネファームを2020年に140万台、2030年に530万台の導入が目標設定されています。

出光興産さんからは、“石油からの水素の製造”という点での京葉コンビナートの効率化（水素の有効利用）が提起され、今、水素ステーションの実証実験中との報告がされました。

トヨタさんは、昨年末に水素燃料電池自動車「MIRAI」を売り出し3000台（3年間の注文）の受注、法人54%・個人46%と報告。水素ステーションの設置が大きな課題で自動車メーカー3社がステーション支援を開始したと状況を説明しました。

イワタニさんからは1941年より水素に着目し、1978年液化水素製造プラントを立ち上げ2009年千葉工場で液化水素の製造を開始していると報告。「千葉県内にイワタニの水素ステーションがない」との発言から何を学びとるべきか？

いろいろな意見が出され次回は、より深く個別の課題を検討していくとのこと。

最後に岡崎会長から「国と協力できるものはグローバルにやりましょう」と提起されましたが、残念ながら千葉県側（商工部長）からは「水素社会についてのグローバルな課題は国のレベルで・・・千葉県としては供給サイドから需要サイドから地域で何ができるか県内の企業の要求に対応していきたい」とエネルギー政策としてビジョンを展開することを回避しているようです。

今こそ、千葉県のポテンシャルを生かして“水素・再生可能エネルギー・スマートグリッド”を検討し県としてのエネルギービジョンを出していき“新しい千葉県の産業構造”を作り出す必要があると思われまます。

TOYOTA FCV CONCEPT
was introduced into market on December 15, 2014
“MIRAI (future)”

